

〈学術研究集会傍聴記〉

第5回日本予防理学療法学会学術大会傍聴記

石毛 里美*

Satomi ISHIGE*

2018年10月20, 21日に北九州国際会議場(福岡県北九州市)にて開催された第5回日本予防理学療法学会学術大会に参加した。日本予防理学療法学会学術大会は日本理学療法学会の分科学会の1つであるが、今回は単独運営で開催する初めての学会であった。

1日目は、特別講演1「運動器の機能低下予防のための運動」(医薬基盤・健康・栄養研究所 身体活動研究部 部長 宮地元彦先生), 特別講演2「フレイルとサルコペニアに対する栄養・運動の効果」(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 山田実先生), 海外招待講演「PHYSICAL INACTIVITY AND NON-COMMUNICABLE DISEASES (NCDs): PREVENTIVE STRATEGIES」(マラヤ大学 医学部 教授/学部長の Wah Yun LOW 先生)が主に行われた。我々理学療法士が指導する運動のエビデンスや今後目を向けていくべき生活習慣病に対する世界の動向などについての講演を拝聴し、盛り沢山の内容であった。

2日目は、パネルディスカッション1「勤労者世代を対象とした予防領域での他職種共同参画の模索と将来展望」、パネルディスカッション2「日本の予防理学療法領域が行うべき研究課題とその展望」、シンポジウム「予防理学療法領域における産業・栄養・嚥下部門の活動から相互作用を見出す」が主な講演であった。特にパネルディスカッション1では、予防・産業・栄養嚥下の各スペシャリストによる実践内容と分科学会に対する期待と展望を拝聴し、職場での労働生産性や健康経営などのキーワードを元に、多くの理学療法士が普段関わっていない安全衛生管理体制や他職種との協働の重要性などの知識を交えながら、今後産業衛生分野へ理学療

法士が参入できる可能性を得ることができ、大変刺激のある講演であった。

他にも、一般演題発表では口述(89演題)・ポスター演題(119演題)ともに活発な質疑が行われていた。自身は「自立歩行が可能な生活期脳卒中者における転倒とその関連指標の類型化」という演題でポスター発表を行なった。今回はクラスター分析という統計解析手法を学び、臨床で経験する傾向を客観的なデータから分析し、傾向を記述する作業を行うことができた。この作業の中で、地道に実践現場より研究ベースへエビデンスを構築していくことの大切さを益々実感し、また他の臨床・地域で働く同業者に共感を得られたと感じた。

同じ予防領域のみで多くの発表を目にし、地域での予防理学療法の取り組み例やエビデンス構築の一助となるような研究があり、自身の臨床現場でも役立つ知見が得られた。また、自身と同じような立場で大学院に通う若手研究者の方々とも交流・意見交換を行うことができ、大変刺激のある時間であった。

以上のことから、学会参加により臨床・研究共に学ぶものが多かった。今後もしっかりと研究を続け、その成果を発表できるように取り組んでいきたいと改めて実感できる機会となった。



※ポスター会場の様子

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程2年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University